趣味

北見医師会

川崎（かわさき）　和凡（かずつね）

私の二つの趣味についてお話しさせていただきます。一つ目は音楽です。音楽との出会いは昭和48年～51年ヤマハオルガン教室の幼児課程を卒業してヤマハ９級をいただいたことから始まります。その後高校時代に吹奏楽部に入部し、管を伸縮させて音程を変えるスライドに魅了されトロンボーンを担当させていただきました。中学時代は陸上部だったため全くの初心者でした。同級生は中学時代からの経験者がほとんどで練習についていくのが大変でした。２年生の時にコンクール地区大会で、いわゆるダメ金で引退しました。大学時代は野球部とブラスアンサンブル部に所属しましたが、当然強制的に野球部の活動がメインのため吹奏楽は同好会程度の活動でした。就職後28～29歳の頃、１年半ほど職場の先輩のおかげで北見交響吹奏楽団に所属し一度全道大会に参加しましたが、転勤で退団後はほとんどトロンボーンとは遠ざかっていました。しかし、2013年46歳の時にこのままでは人生あっという間に老いて終わってしまうと思い網走吹奏楽団に入団し2022年から2024年、３年連続で全道大会（キタラ大ホール）に出場し、年次順に銅、銀、金賞をいただきました。空席が目立つ薄暗い観客席に８人のプロが審査員として自分の音を聴いていると思うと気絶しそうでした。優秀な指導者や家族の支えがあっての結果と感謝しています。純正律、平均律、和音進行、長調短調それぞれ12調など、音楽大学が存在するように音楽は宇宙を含めた世の中の理を表す崇高な学問です。この世は物質も光も音もすべて波動で成り立っています。合奏などで音を合わせるときは高音（よりシャープな波）に合わせると正確ですし、手術顕微鏡も強拡大でピントがより正確になります。全道大会を目指して真夏の蒸し風呂のような練習場で約40人の男女が一生懸命ただ空気をブルブル震わせ汗だくになっている姿をみていると、ヒトの本体は肉体ではなく異次元生命体なのだとつくづく思います。ステーキや高級ワインを味わうような肉体的な快楽ではなく、音楽はより高次元な魂で味わう快楽なのだと実感します。

もう一つの趣味は将棋です。当時の職場の同僚のお勧めもあり50歳からネット将棋（将棋ウォーズ）を開始しました。７年かけてやっと昨年（2025年）２月に日本将棋連盟公認のウォーズ１級になれましたが、いまだ級位者です。実質ストリート・ファイトなのでとても緊張しますし、読み筋にない手が飛んで来たり大悪手を指して形勢が逆転した時などは激しく動揺します。そこで、冷静さを保ちつつ打開策を模索する精神力の強さと思考能力が鍛錬されます。不測の事態が発生し得る手術にも、通じるものがあります。もちろん手術に「投了」ボタンはないので将棋の方が気楽なはずですが、負けるとものすごく悔しいので十分精神力や思考力の訓練になります。昨年８月からは日本将棋連盟北見支部に所属し、有段者と対面差しもしています。対面のため相手が長考してついうっかり「ここに飛車を打たれて…」と盤の５一に指をさし、図らずもヒントをくれることもあり、対面ならではの面白さもあります。しかし、ただ木の小片（駒）を盤上でペチペチ動かすだけで肉体的には何も起きていません。そうです。これも高次元の魂の嗜みです。40の手習いではなく私の場合50の手習いですが有段者目指して研鑽していこうと思っています。

写真：左奥が筆者

画像：筆者の将棋ウォーズマイページ（2026/3/7）